



あめ めい 雨はなぜ、とう明なの

くうきちゆう すいじょうき くも 空気中の水蒸気が雲をつくる

うみ みずつみ かわ いけ じめん ちひょう すこ みず じょうはつ
海や湖、川や池、地面など、地表のあらゆるところから、いつも少しずつ水が蒸発し
ています。水が蒸発すると水蒸気になって、空気中にふくまれます。

じょうはつ すいじょうき あたた そらたか じょうくう ひ ちい
蒸発した水蒸気は、暖められてだんだん空高くのぼっていき、上空で冷やされて、小さ
な水や氷のつぶになります。このような水や氷のつぶが、たくさん集まって空に浮かび、
雲になります。雲をつくっているつぶは、100分の1ミリメートルぐらいの大きさで、た
いへん小さいものです。

くも おお あめ 雲のつぶが大きくなって、雨になる

くも なか ちい みず こおり おお
雲の中で、小さな水や氷のつぶは、くっつきあってだんだん大きくなります。つぶが大き
くなると、重くなって、空にうかんでいることが、できなくなります。すると、雨になって
落ちてきます。

あめ みず 雨は水のつぶなので、とう明

あめ ちい みず おお みず めい あめ めい
雨は、小さな水のつぶが大きくなったものです。水のつぶはとう明なので、雨はとう明な
のです。

あめ
雨のつぶは、ふつう、1～2ミリメートルぐらいの大きさですが、5ミリメートルぐら
いのものもあります。（監修・村山 貢司）

